

日野といわれても



日野病院名誉病院長 井上 幸次

「日野病院の井上です」ということにだいぶ慣れてきましたが、時々というかしばしば相手の反応に「？」が混じるようです。「鳥取大学の井上です」といっていた頃にはそれはあまりなかったかな。関東の人は、鳥取県と島根県が区別できない人も多いのですが、それでも何となくあのあたりくらいのイメージはつきます。ところが日野病院ではさっぱりわからないようです。実は日野というのはひじょうによくある地名で、東京にも日野市があって、人口も米子市より多いらしいし、新選組の土方歳三はその出身らしいし、だいぶ負けています。関東の人は日野と言われるとやっぱりこちらを思い浮かべるようで、無理もないとは思いますが。滋賀県にも日野町があって、京都に近いですし、関西の人はこちらが浮かぶのかもしれませんが。ややこしいことに米子市の中にも日野町があるので、市の中の町名まで言うと日本中にもっとたくさんの日野がありそうです。

地名によらず、日野はよくある固有名詞で、あちこちで耳にすることがあります。日野自動車という大型トラック製造会社が排ガスや燃費の試験で不正を行っていたことが昨年発覚した時は（関係ないのに）何となく肩身の狭い気分になってしまいました。有名なジャズトランペッターの日野皓正とかは（関係ないですが）少し嬉しく思いますし、時代をさかのぼると、浄土真宗の宗祖の親鸞（今年生誕850年でいろいろな催しがされています）は日野という姓だったようで、これはよかったです（ますます関係ないですが）。

時代をさかのぼるということで、話が突然飛びますが、最近たまたま「平家物語」をちゃんと読みました（といっても原語ではなく現代語訳で。訳者の古川日出男という人の文章がリズムカルで好きなので読んだのですが）。「平家物語」というと戦記物というイメージで、合戦のことが書いてあると思っていたのですが、最初の方は平清盛がいかにひどいことをしていたかということが延々と書いてあって、戦いの場面はまったくありません。三分の一近くなってようやく以仁王（もちひとおう）の乱という、源平合戦のはじまりの所が出てきますが、そこで以仁王を逃がすために大勢の敵を相手に孤軍奮闘する武将が出てきます。この人が結構かっこよくて、平家物語の最初の（そして私見を言えば

最高の）アクションシーンが展開します。しかし、以仁王の乱は失敗に終わり、この武将長谷部信連（のぶつら）も平家に捕らわれてしまいます。本来なら斬首に処せられてしかるべきだったのですが、敵ながらあつぱれということで、流罪に処せられます。その流される先が何と「日野」だったのです。ですが、日野はあちこちにあるので本当にうちの「日野」かな？と心配になって、実は原文を確かめてみたのですが、「伯耆の日野へぞ流されける」とはつきりと書いてありました。うちの「日野」は平家物語にも書かれている由緒ある日野である（流刑地ではありませんが）と誇らしい気持ちになり、ちょっと東京の日野に勝ったような気分になりました。

実は、そのあとで金持神社に行ったら、ちゃんとその説明書きにこのことが書いてありました（図）ので、平家物語に出てくる日野に間違いありません。日野に長く住んでいた人にはよく知られたことなのかもしれませんが、まったく予期せぬ所で日野に出会えた私としては、少しまた日野に対する親近感が湧いたように思います。

